

有珠山の火山活動解説資料（平成 20 年 3 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙及び熱活動（図 2～6）

西山西麓火口群 N-B 火口の噴煙の高さは火口縁上概ね 100～200m で推移し、噴煙活動は静穏な状況が続いています。

7 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、西山西麓火口群及び山頂火口原の地熱域の状況は、これまでと比較して変化はありませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震活動（図 2、図 7、表 1）

火山性地震は一日あたり 0～3 回で、地震活動は低調に経過しました。震源は概ね山頂部直下の浅い所に分布しており、これまでと比べて変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 8～9）

GPS 連続観測では、火山活動の高まりを示すような変動は認められませんでした。

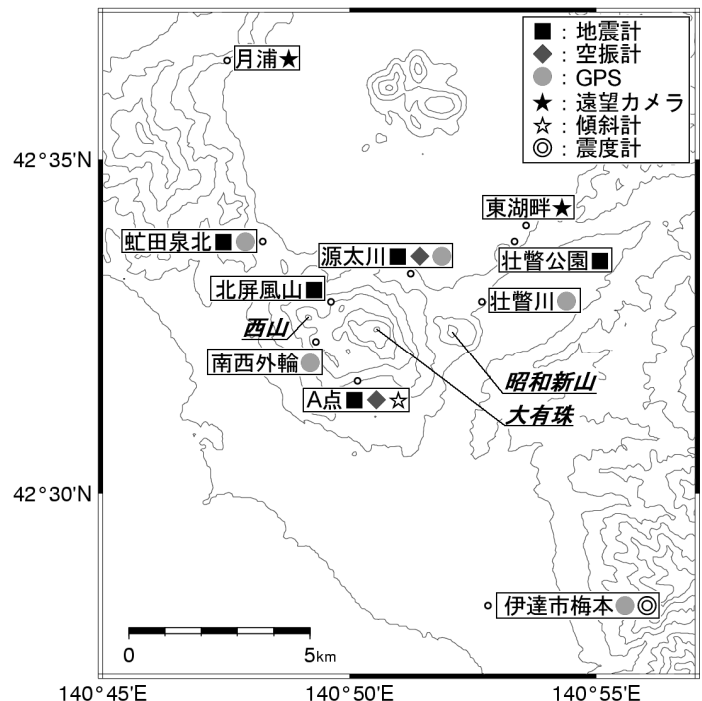


図 1 有珠山 火山観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.sapporo-jma.go.jp>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月分）は平成 20 年 5 月 9 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

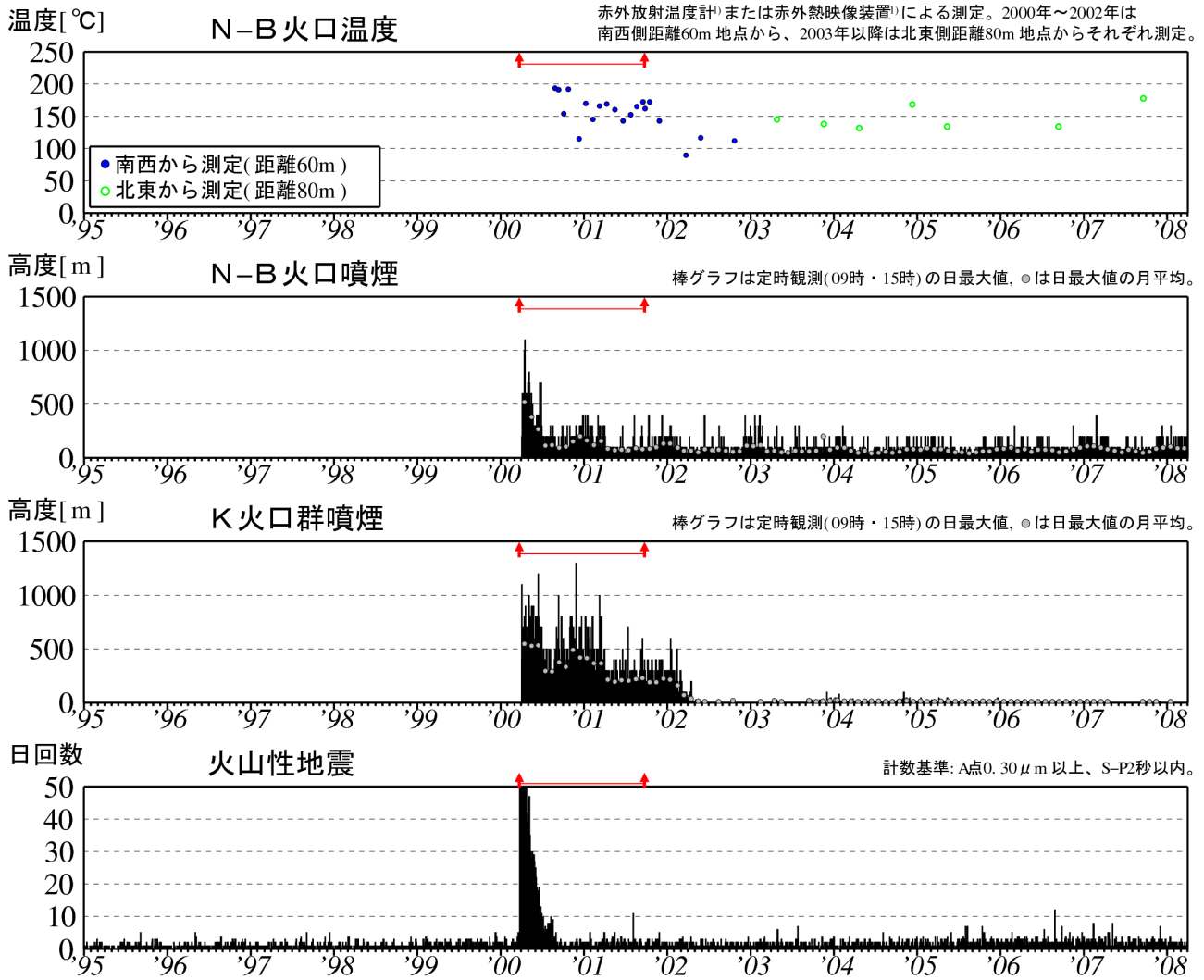


図2 有珠山 最近の火山活動経過図 (1995年1月～2008年3月)

↑印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

・2000年9月以降、地震回数は一日あたり概ね5回以下で推移しています。

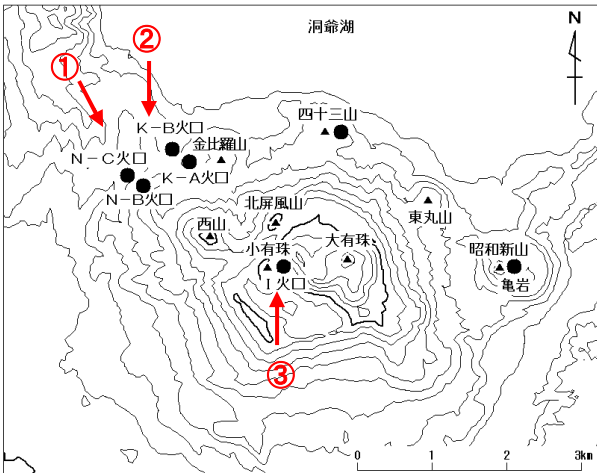


図 3 有珠山 火口周辺図



図 4 有珠山 西山西麓火口群 N-B 火口の状況
(2008 年 3 月 7 日 図 3 の①方向上空より撮影)

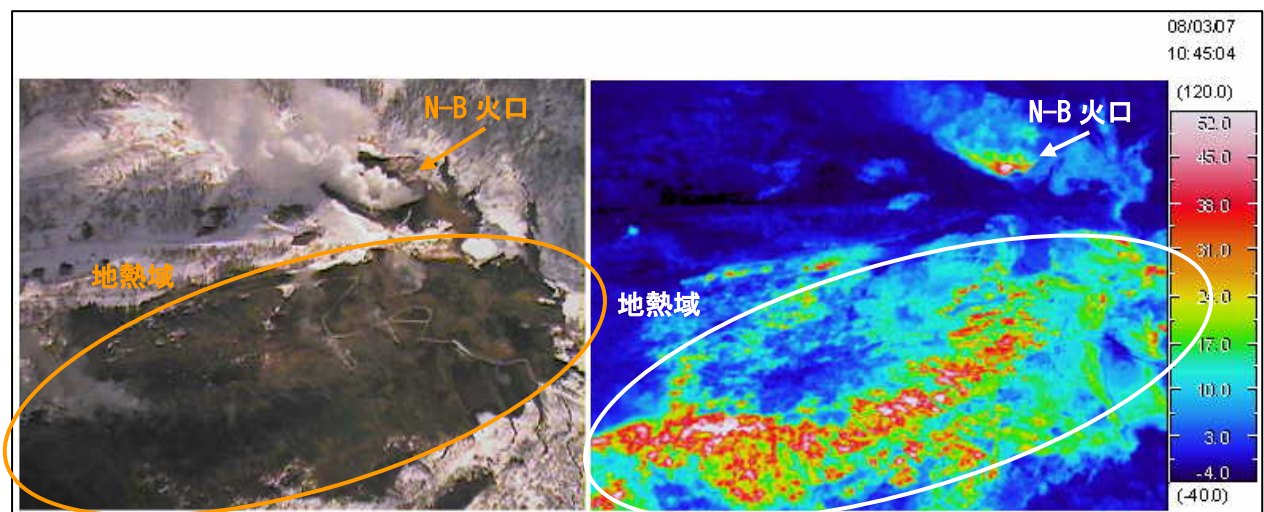


図 5 有珠山 赤外熱映像装置¹⁾による西山西麓火口群及び北西側地熱域の地表面温度分布
(2008 年 3 月 7 日 図 3 の②方向上空より撮影)

- ・ N-B 火口の火口壁では噴気活動が続いており、熱的に高い状態が継続していました。西山西麓火口群北西側の地熱域は、前回(2007 年 11 月 13 日)と比較して、大きな変化はありませんでした。

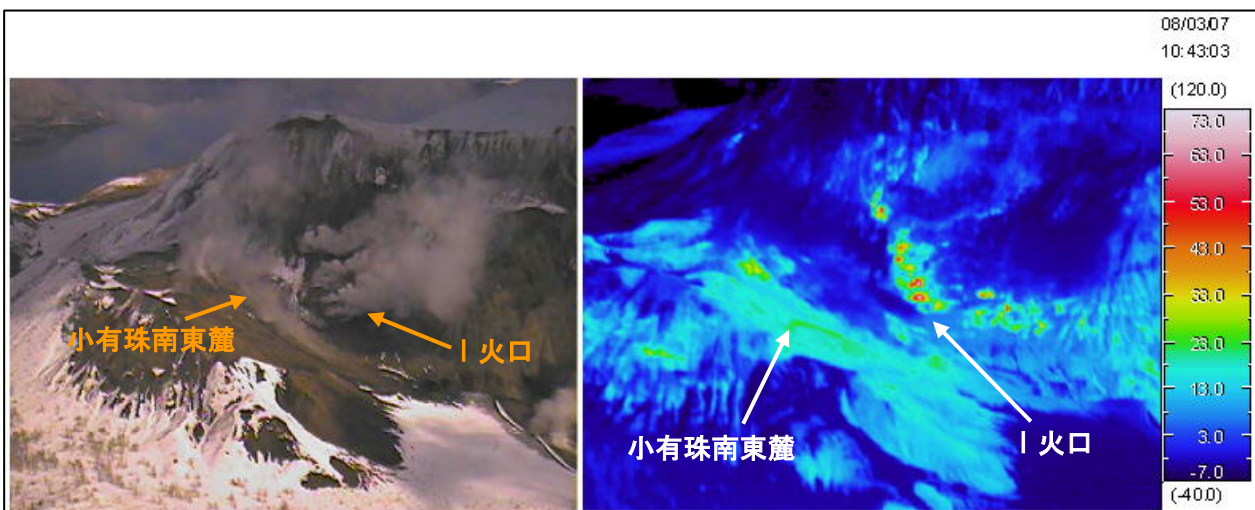


図 6 有珠山 赤外熱映像装置¹⁾による山頂火口原の地表面温度分布
(2008 年 3 月 7 日 図 3 の③方向上空より撮影)

- ・ 山頂火口原では、火口や地熱域の状況に大きな変化はありませんでした。

表 1 有珠山 地震・微動の月回数（図 1 の A 点）

2007～2008 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地震回数	37	33	26	26	41	20	26	29	40	25	24	29
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

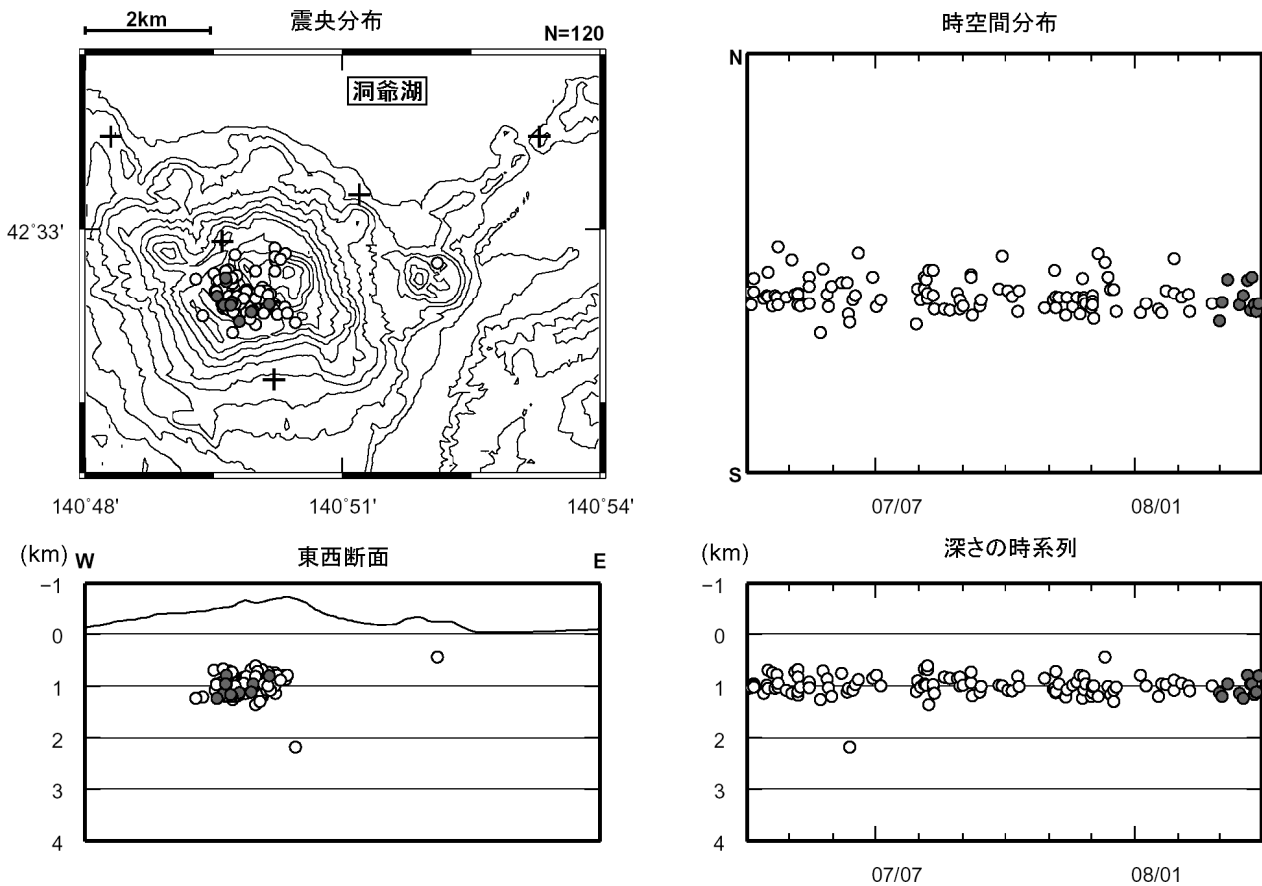


図 7 有珠山 震源分布図（2007 年 4 月～2008 年 3 月、+は地震観測点）

- 印は今期間（2008 年 3 月）の震源
- 印は前期間までの 11 ヶ月間（2007 年 4 月～2008 年 2 月）の震源
- ・前期間までの震源は山頂部直下の浅い所（山頂から深さ 1.5km 付近）に集中しています。今期間の震源も概ねこの領域内に分布しています。

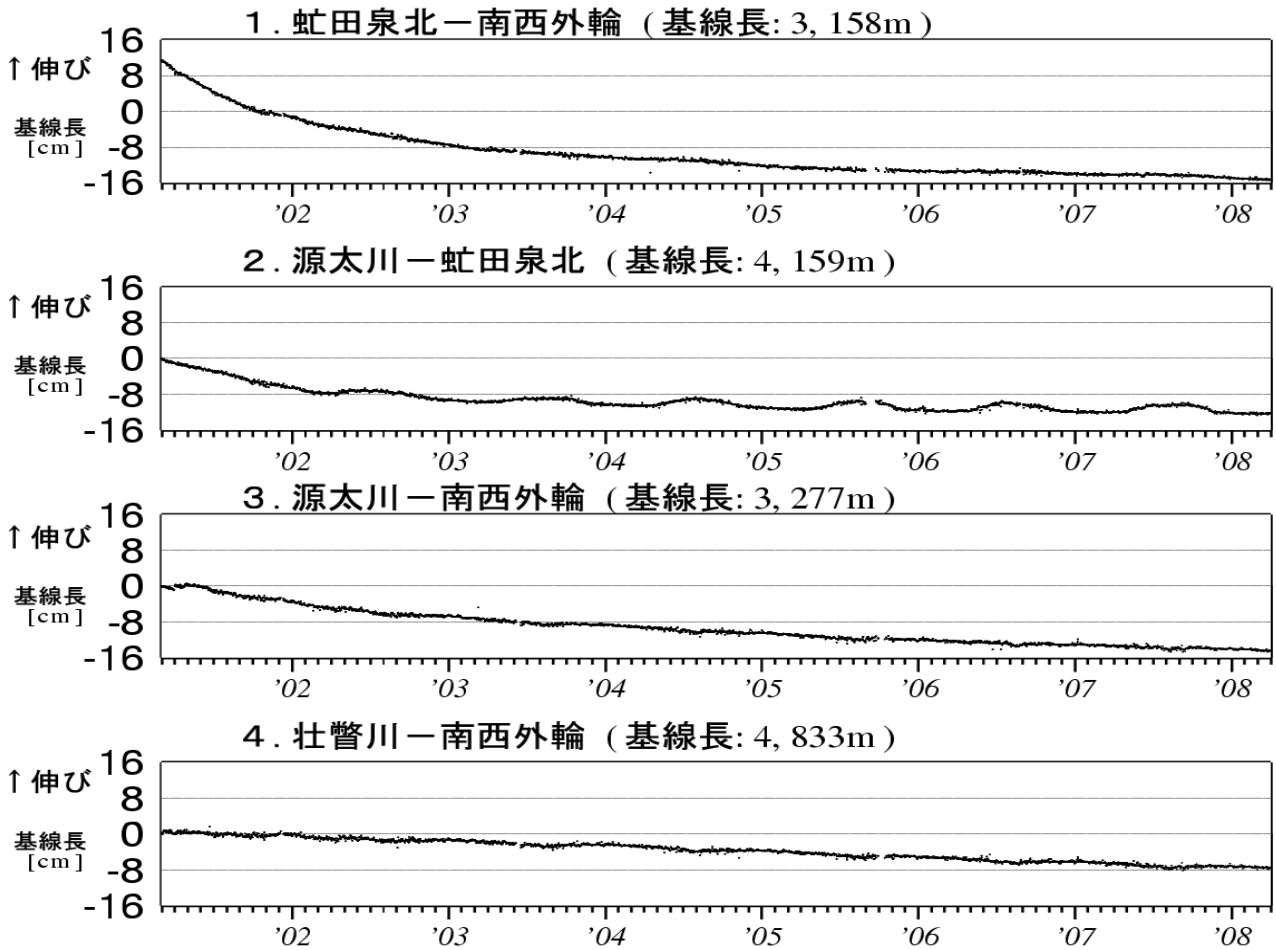


図8 有珠山 GPS 連続観測による基線長変化（2001年3月～2008年3月）
 グラフの空白部分は欠測

図8の1～4は、図9のGPS基線①～④に対応しています。

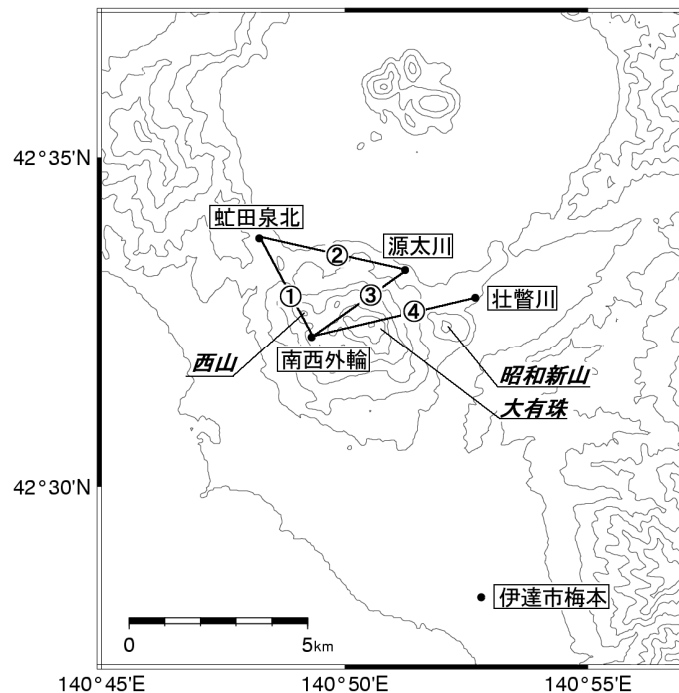


図9 有珠山 GPS 連続観測点配置図